



特に、3年生とその保護者の皆様へ

じんかんばんじさいおう

うま

人間万事塞翁が馬



昔、中国の北の方に占いの上手な老人が住んでいました。さらに北には胡^こという異民族が住んでおり、国境には城塞(外からの敵を防ぐためのとりで)がありました。

ある時、どういうわけか、その老人の大切にしていた馬が、北の胡の国の方へ逃げていってしまいました。この地方の馬は、高く売れるので近所の人々は気の毒がって老人をなぐさめに行きました。ところが老人は、残念がっている様子もなく、言いました。

「このことが幸福にならないともかぎらないよ！」

そしてしばらく経ったある日、逃げ出した馬が胡の良い馬をたくさんつれて帰ってきました。そこで近所の人たちがお祝いを言いに来ると、老人は首を振って言いました。

「このことが禍^{わざわい}にならないともかぎらないよ！」

しばらくすると、老人の息子がその馬から落ちて足の骨を折ってしまいました。近所の人たちがかわいそうに思ってなぐさめに行くと、老人は平然と言いました。

「このことが幸福にならないともかぎらないよ！」

一年が経ったころ、胡の人たちが城塞に攻め入って来ました。城塞近くの若者は、みんな兵隊として連れていかれました。そして、何とか胡人から国を守ることができたのですが、その多くは戦いで死んでしまいました。しかし、老人の息子は足を負傷していたので、戦いに行かずにすみ、無事でした。



この話は、中国の古い書物「淮南子^{えなんじ}」に書かれています。

「人間万事塞翁が馬」の「人間^{じんかん}」とは、世の中^{せけん}、世間という意味です。「塞翁^{おきな}」というのは、城塞近くに住んでいる「翁 = 老人」という意味です。

話を要約すると、「城塞近くに住む老人の馬がもたらした運命は、福^{ふく}から禍^{わざわい}へ、禍から福へと人生に変化をもたらした。まったく禍福^{かふく}というのは予測できない。」というものです。「予測できないから、考えても仕方がない。」というより、「一喜一憂する暇があったら、次の行動をとるべきだ！」という意味合いの方が強いと感じています。

出来事をどう解釈するか？

私立高校の合格発表がありました。昨日は、県立前期選抜の内定発表もありました。この後の三者懇談会では、卒業テストの結果が加味された1月末現在の成績（評定）が提示されます。これらのことが、3Aのそれぞれにとって“福”だったのか“禍”だったのかはわかりません。でも、「人間万事塞翁が馬」です。“禍”を“禍”のままでは終わらせるのか。ここから“福”に変えていくのか。皆さんと3Aの姿勢が試されています。



i P S細胞を発見した山中博士は、最初に勤めた病院で上手いかず、医者道をあきらめて研究者の道を選んだところ、ノーベル賞を受賞しました。名誉ある立場となり本やTVで活躍していたところ、仲間の不祥事で謝罪会見をすることになります。

「ピンチがチャンス！」という言葉もあります。現実をしっかり受け止め、それに潰されることなく、次のステップに進みましょう。いつか、この経験が生きてくることを信じましょう。



なかなかスイッチが入らず、先生方を悩ませていた様子の3年生。

“禍”が“福”となって、やる気スイッチがONになればいいね。

受験は団体競技です。ここからの3週間でどう生かすのか。9年間で培った学級力が今こそ、試されますよ。

3年生の保護者の皆様へ

教育相談、三者懇談の機会を有効に使ってください。お子さんにとって、今が一番苦しい時です。背中を押してやりたいお気持ちもわかりますが、ぜひ共感の姿勢を。温かい見守りをよろしくお願いします。



橋北中キャリア教育アドバイザーの佐藤正倫先生の話によく出てくる、元ラグビー日本代表の福岡堅樹さんが、本を出版されました。福岡さんも、コロナ過で東京オリンピックの開催が1年延びた“禍”を、「勉強の時間が増えた」と前向きに捉え見事、医学部の合格という、“福”につなげましたね。

職員室前の本棚に入れておきますので、興味がある人は読んでみてください。ちなみに、元サッカー日本代表主将の長谷部誠さんが書いた「心を整える。」もおすすです。